

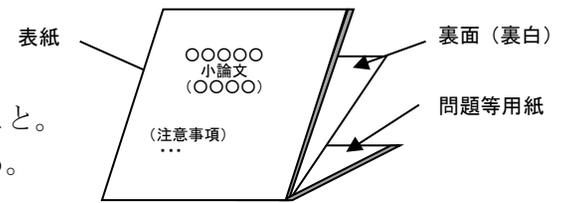
令和6年度徳島大学総合科学部入学試験問題

小論文

学校推薦型選抜 I (大学入学共通テストを課さない)

(注意事項)

- 1 問題用紙，解答用紙および下書き用紙は，監督者の指示があるまで開かないこと。
- 2 この表紙を除いて**問題用紙は1枚，解答用紙1枚及び下書き用紙は1枚**である。
用紙の折り方は図のようになっているので注意すること。
- 3 **解答は，解答用紙の指定された解答箇所**に書くこと。**指定された解答欄以外に書いたものは採点しない。また，裏面に解答したものも採点しない。**
- 4 **解答開始後，解答用紙等の「受験番号」欄に受験番号をはっきりと記入すること。**
- 5 下書き用紙を含め，配付した用紙はすべて回収する。



令和6年度学校推薦型選抜Ⅰ(大学入学共通テストを課さない)

小論文 問題用紙

次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。

一般的な考えとして、怒ったときには攻撃するものだと思い込んでいる節がありませんか？また、逆に、攻撃しているということは内心怒っているのだろうと推測することが多いはずですが。つまり、怒りという内的な感情と攻撃という外的な行動とは、1対1で対応していると思いがちです。しかし、自分のこれまでの経験を冷静に振り返って考えてみれば、必ずしもそうでないことはすぐにわかります。私たちは、怒りをおぼえたときに必ずしも攻撃するわけではなく、むしろ我慢したり第三者に聞いてもらったりするほうが多いことに気がつきます。このことは、これまでいくつかの研究によって一貫して報告されています。

このように怒りと攻撃の関係についての重要な点の1つは、怒りは必ずしも攻撃をもたらすわけではない、ということです。いいかえれば、攻撃とは、怒りの後に生じる数ある行動のうちの1つにしかすぎません。なお、これとは逆に、怒らなくても攻撃する、という場合もあるでしょう。例えば、何らかの目標を得るための手段として、戦略的制御的に攻撃行動を用いる場合です。銀行強盗や恐喝などは、その具体例です。銀行強盗や恐喝をするのは、金を奪うためであって、相手を傷つけることが本来の目的ではありません。こういう種類の攻撃を、道具的攻撃と呼びます。一方、相手が憎くて傷つけることそのものが目標の攻撃を、敵意的攻撃といいます。道具的攻撃の場合、必ずしも憎しみや怒りは必要ありません。むしろ、冷静沈着に攻撃を使うほうが、所定の目的を首尾よく遂行するには都合がよいかもしれません。

繰り返しますが、怒りを抱き、相手を憎く思って直接攻撃を加えようとした場合は、敵意的攻撃となります。ここでは、単純に、怒り＝攻撃ということになります。一方、道具的攻撃でも、怒りを伴うことがあります。例えば、社会的な公正や平等を維持・回復するための道具的攻撃には、何らかの社会的な怒りを伴うことがあるでしょう。例えば、順番待ちをしている列に割り込んできた非常識な人間に対して、私たちは怒りをおぼえ、ときには実際に声に出して注意をします。注意を聞かなければ実力行使に出るかもしれません。そのために、口論になることもあるでしょう。もともとの発端は、順番を守って列に並ぶという公正性を保つために生じた怒りと攻撃であって、けっして相手を傷つけることそのものが目的ではありません。

(出典 湯川進太郎『怒りの心理学—怒りとうまくつきあうための理論と方法—』2008年 有斐閣、9-12頁 出題にあたって、一部改変した)

問1：問題文を要約しなさい。(150字以内)

問2：下線部を読み、「社会的な公正や平等を維持・回復する」ための道具的攻撃に怒りが伴うことで、その目的を達成することに役に立つと考えられる怒りの機能について、具体例をあげて説明しなさい。ただし、本文中の具体例は用いないこと。(350字以内)

